

NetCOBOL V10.2.0



リリース情報

Windows(64)

B1WD-2943-01Z0(00)
2011年4月

まえがき

本書は、NetCOBOLのリリース情報について説明します。

製品の呼び名について

本書に記載されている製品の名称を、以下のように略して表記します。

正式名称	略称
Windows(R) 7 Home Premium Windows(R) 7 Professional Windows(R) 7 Enterprise Windows(R) 7 Ultimate	Windows 7
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Foundation Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter	Windows Server 2008 R2
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Foundation Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V(TM) Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V(TM) Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter without Hyper-V(TM)	Windows Server 2008
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition	Windows Server 2003 R2 x64 Edition
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition	Windows Server 2003 x64 Edition

- 次の製品すべてを指す場合は、「Windows」と表記しています。
 - Windows 7
 - Windows Server 2008 R2
 - Windows Server 2008
 - Windows Server 2003 R2 x64 Edition
 - Windows Server 2003 x64 Edition
- 次の製品すべてを指す場合は、「Internet Explorer」と表記しています。
 - Internet Explorer 5.0
 - Internet Explorer 5.0.1
 - Internet Explorer 5.5
 - Internet Explorer 6
 - Internet Explorer 7
 - Internet Explorer 8

- 次の製品すべてを指す場合は、「Netscape」と表記しています。

- Netscape 6
- Netscape 7

本書の目的

本書は、旧版からの機能追加、障害修正、およびそれらに伴う互換に関する情報を説明しています。

旧版を使用していたお客さまが、より円滑に本製品に移行できることを目的としています。

本書の対象読者

旧製品を導入されており、本製品への移行を検討されている方、あるいは移行中の方を対象としています。

本書の位置づけ

本書は、機能追加、障害修正、およびそれらに伴う互換に関する情報を説明していますが、断片的な情報ですので、全体像、あるいは詳細な情報はそれぞれのプログラムのマニュアルを参照してください。

関連マニュアル

この製品および関連製品のマニュアルには、本書の他に以下のマニュアルがあります。

以下のマニュアルの名前は、製品名(プログラム名)、製品(プログラム)世代とマニュアル名の3つを組み合わせで記載しています。本書の中で下記のマニュアル名を記載する場合、世代が省略されることがあります。また、製品名(プログラム名)が明らかな場合は製品名(プログラム名)も省略されることがあります。

- NetCOBOL V10.2 COBOL文法書
- NetCOBOL V10.2 使用手引書
- NetCOBOL V10.2 NetCOBOL Studio 使用手引書
- NetCOBOL V10.2 COBOL ファイルアクセスルーチン使用手引書
- NetCOBOL V10.2 メッセージ説明書
- NetCOBOL V10.2 例題プログラム
- MeFt V10.0 ユーザーズガイド
- MeFt V10.0 メッセージ集
- FORM V10.0 説明書
- FORM V10.0 補足説明書
- Jアダプタクラスジェネレータ V10.0 使用手引書
- SIMPLIA/TF-LINDAオンラインマニュアル
- SIMPLIA/TF-MDPORTオンラインマニュアル
- PowerSORT Server V6.0 ユーザーズガイド

登録商標について

- Microsoft, Windows, Windows NT, Windows Server, Windows Vista, Excelは、米国 Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ActiveXは、米国Microsoft Corporationの商標です。
- UNIXは、X/Openカンパニーリミテッドが独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。
- HP, HP-UXは、米国Hewlett-Packard Companyの商標です。
- Micro Focusは、Micro Focus International Limited.の登録商標です。

- Pervasive、Pervasive Software、Pervasive SQL、Btrieve、Pervasive Softwareロゴは、米国Pervasive Software,Inc.の米国および他の国における商標または登録商標です。
- OracleとJavaは、Oracle Corporationおよびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。
- Linuxは、Linus Torvalds氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。
- Intel、Itaniumは、Intel Corporationの登録商標です。
- その他の会社名または製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

輸出管理規制について

本ドキュメントを輸出または提供する場合は、外国為替および外国貿易法および米国輸出管理関連法規等の規制をご確認の上、必要な手続きをおとり下さい。

お願い

- 本書を無断で他に転載しないようお願いします。
- 本書は予告なしに変更されることがあります。

2011年4月

Copyright 2009-2011 FUJITSU LIMITED

目次

第1章 追加機能の概要.....	1
1.1 NetCOBOL.....	1
1.1.1 NetCOBOL V10の追加機能概要.....	1
1.2 MeFt.....	3
1.3 SIMPLIA/COBOL支援キット.....	4
1.4 PowerSORT.....	4
1.5 Jアダプタクラスジェネレータ.....	4
1.6 FORM.....	4
第2章 互換に関する情報.....	5
2.1 NetCOBOL開発環境.....	5
2.1.1 SQLCODE、SQLMSGおよびSQLERRDの定義場所.....	5
2.1.2 規定外の外部10進項目同士の加減算の演算結果について.....	5
2.1.3 障害修正に関する互換情報について.....	6
2.2 NetCOBOL運用環境.....	8
2.2.1 障害修正に関する互換情報について.....	8
2.3 MeFt.....	9
2.3.1 移行時の注意事項.....	9
2.3.2 制限事項.....	9
2.3.3 障害修正に関する互換情報について.....	11
2.4 SIMPLIA/COBOL支援キット.....	11
2.5 PowerSORT.....	12
2.6 Jアダプタクラスジェネレータ.....	12
2.7 FORM.....	12
第3章 プログラム修正一覧.....	13
3.1 NetCOBOL開発環境.....	13
3.2 NetCOBOL運用環境.....	19
3.3 MeFt.....	20
3.4 SIMPLIA/COBOL支援キット.....	23
3.5 PowerSORT.....	23
3.6 Jアダプタクラスジェネレータ.....	23
3.7 FORM.....	23

第1章 追加機能の概要

ここでは、本バージョン・レベルで追加された機能の概要と内容を説明します。

1.1 NetCOBOL

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ

1.1.1 NetCOBOL V10の追加機能概要

表1.1 NetCOBOL V10の追加機能概要

項番	V/L	機能名	内容	マニュアルの記載場所
1	V10.2.0	FETCH NEXT/ PRIOR文サポ ート	データベースアクセスで FETCH文 に"NEXT"と"PRIOR"を指 定できるようになりました。	COBOL文法書 <ul style="list-style-type: none">• 8.6.4 FETCH文 NetCOBOL 使用手引書 <ul style="list-style-type: none">• 18.2.4.5 FETCH PRIOR文によるデータの取得
2	V10.2.0	IBM DB2互換	SQLCAに含まれる SQLSTATE、SQLCODEお よびSQLERRDを翻訳できる ようになりました。	COBOL文法書 <ul style="list-style-type: none">• 8.2.4 SQLSTATE/SQLCODE• 8.2.6 SQLERRD
3	V10.2.0	ファイルの高速 処理の一括指定 サポート	レコード順・行順ファイルに 有効となるファイルの高速処 理(BSAM)機能を一括して 指定できるようになりました。	NetCOBOL 使用手引書 <ul style="list-style-type: none">• 6.7.4 ファイルの高速処理
4	V10.2.0	DISPLAY文の イベントログ出力 サポート	DISPLAY文の出力先とし て、イベントログを指定できる ようになりました。	NetCOBOL 使用手引書 <ul style="list-style-type: none">• 9.1 小入出力機能• 5.4.1.10 CBR_DISPLAY_CONSOLE_OUTPUT(DISPLAY UPON CONSOLEのイベントログ出力指定)• 5.4.1.13 CBR_DISPLAY_SYSERR_OUTPUT(DISPLAY UPON SYSERRのイベントログ出力指定)• 5.4.1.16 CBR_DISPLAY_SYSOUT_OUTPUT(DISPLAY UPON SYSOUTのイベントログ出力指定)• 5.4.1.8 CBR_DISPLAY_CONSOLE_EVENTLOG_LEVEL (DISPLAY UPON CONSOLEのイベントログ出力時 のイベント種類指定)• 5.4.1.11 CBR_DISPLAY_SYSERR_EVENTLOG_LEVEL(DISPLAY UPON SYSERRのイベントログ出力時のイ ベント種類指定• 5.4.1.14 CBR_DISPLAY_SYSOUT_EVENTLOG_LEVEL(DISPLAY UPON SYSOUTのイベントログ出力時のイ ベント種類指定

項番	V/L	機能名	内容	マニュアルの記載場所
				<p>DISPLAY UPON SYSOUTのイベントログ出力時のイベント種類指定</p> <ul style="list-style-type: none"> 5.4.1.9 @CBR_DISPLAY_CONSOLE_EVENTLOG_SRC NAME(DISPLAY UPON CONSOLEのイベントログ出力時のイベントソース名指定) 5.4.1.12 @CBR_DISPLAY_SYSERR_EVENTLOG_SRC NAME(DISPLAY UPON SYSERRのイベントログ出力時のイベントソース名指定) 5.4.1.15 @CBR_DISPLAY_SYSOUT_EVENTLOG_SRC NAME(DISPLAY UPON SYSOUTのイベントログ出力時のイベントソース名指定)
5	V10.2.0	CHECK機能抑止の実行時オプションサポート	<p>CHECK機能を抑止する下記の実行時オプションをサポートしました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • nocb : CHECK(BOUND) • noci : CHECK(ICONF) • nocl : CHECK(LINKAGE) • nocn : CHECK(NUMERIC) • nocp : CHECK(PRM) 	<p>NetCOBOL 使用手引書</p> <ul style="list-style-type: none"> • 5.7 実行時オプションの指定形式
6	V10.2.0	TRACE機能抑止の実行時オプションサポート	<p>TRACE機能を抑止する実行時オプション"nor"をサポートしました。</p>	<p>NetCOBOL 使用手引書</p> <ul style="list-style-type: none"> • 5.7 実行時オプションの指定形式
7	V10.2.0	トレース情報ファイルのマルチプロセスサポート	<p>トレース情報ファイルをプロセス毎に出力できるようになりました。</p>	<p>NetCOBOL 使用手引書</p> <ul style="list-style-type: none"> • 17.3.2トレース情報
8	V10.2.0	診断機能によるアプリケーションエラーメッセージ出力サポート	<p>アプリケーションエラーの発生によって診断機能が起動した場合、JMW0099I-Uのメッセージを出力するようになりました。これにより、アプリケーションエラーの発生を容易に認知できるようになりました。</p>	<p>メッセージ説明書</p> <ul style="list-style-type: none"> • 4章 診断機能のメッセージ
9	V10.2.0	DISPLAY文の機能名SYSERR抑止サポート	<p>DISPLAY文の機能名SYSERRに対応付けた呼び名に対して、出力を抑止できるようになりました。</p>	<p>NetCOBOL 使用手引書</p> <ul style="list-style-type: none"> • 5.4.1.54 @NoMessage(実行時メッセージおよびSYSERRの出力抑止指定)
10	V10.2.0	NetCOBOL Studio	<p>オープンソースのGUI開発環境であるEclipseをベースとしたCOBOLプログラム開発環境を提供します。</p>	<p>NetCOBOL Studio使用手引書</p>

項番	V/L	機能名	内容	マニュアルの記載場所
			GUIによる64ビットCOBOLアプリケーションのローカル開発ができるようになりました。	
11	V10.2.0	リモート開発	NetCOBOL Studioを使用して、Solaris、Linux(Itanium)、Linux(64)、Windows(Itanium)およびWindowsサーバで動作するCOBOLアプリケーションをリモート開発できるようになりました。 (注)	NetCOBOL Studio使用手引書 ・ 9章 リモート開発機能
12	V10.2.0	登録集デバッグ	NetCOBOL Studioで、登録集に対するデバッグ機能をサポートしました。	NetCOBOL Studio使用手引書 ・ 7章 デバッグ機能
13	V10.2.0	スクリーン操作機能	スクリーン操作機能をサポートしました。	COBOL文法書 ・ 2.8 スクリーン操作機能 NetCOBOL使用手引書 ・ 23章 画面を使った入出力

注: Solaris、Linux(Itanium)、Linux(64)およびWindows(Itanium)は、それぞれ次の製品を指します。

- ・ Solaris
 - Oracle Solaris 10
- ・ Linux(Itanium)
 - Red Hat(R) Enterprise Linux(R) 5(for Intel Itanium)
- ・ Linux(64)
 - Red Hat(R) Enterprise Linux(R) 5(for Intel64) 64bit
 - Red Hat(R) Enterprise Linux(R) 6(for Intel64) 64bit
- ・ Windows(Itanium)
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition for Itanium-based Systems
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter Edition for Itanium-based Systems
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 for Itanium-Based Systems

1.2 MeFt

MeFtは、以下の製品に含まれています。

- ・ NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- ・ NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ

追加機能はありません。

1.3 SIMPLIA/COBOL支援キット

SIMPLIA/COBOL支援キットは、以下の製品に含まれています。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ

追加機能はありません。

1.4 PowerSORT

PowerSORTは、以下の製品に含まれています。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ

PowerSORTの追加機能の情報は、“PowerSORT ユーザーズガイド”を参照してください。

1.5 Jアダプタクラスジェネレータ

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ

表1.2 Jアダプタクラスジェネレータの追加機能概要

項番	V/L(*)	機能名	内容	マニュアルの記載場所
1	V10.0.0 (V10.2.0)	Jアダプタクラス 生成および運用 環境	Javaクラスを呼び出すCOBOLクラス(Jアダプタクラス) を生成するツールおよびJアダプタクラスの実行環境を 提供します。	Jアダプタクラスジェネレータ 使用手引書

*:()内のバージョンは、NetCOBOLシリーズでのバージョンレベルを示します。

1.6 FORM

NetCOBOL V10.2.0 から、FORMを提供します。

FORMは、以下の製品に含まれています。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ

FORMの追加機能の情報は、“FORM 説明書”を参照してください。

第2章 互換に関する情報

ここでは、以前のバージョン・レベルから変更された互換に関する情報を記載します。

2.1 NetCOBOL開発環境

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ

2.1.1 SQLCODE、SQLMSGおよびSQLERRDの定義場所

変更内容

SQL文の実行時情報を格納するSQLCODE、SQLMSG、およびSQLERRDの定義場所の扱いが変更になりました。

V10.1.0

SQL宣言節外で定義されたSQLCODE、SQLERRD、またはSQLMSGには、SQL文の実行時情報を格納しません。

V10.2.0以降

SQL宣言節外で定義されたSQLCODE、SQLERRD、またはSQLMSGに、SQL文の実行時情報を格納します。

影響

以下の条件の場合、V10.1.0以前ではSQLCODE、SQLERRDまたはSQLMSGにSQL文の実行時情報は格納されませんでした。V10.2.0以降ではSQL文の実行時情報が格納されるようになりました。

そのため、上記3つのデータをSQL文の実行時情報を得る目的以外で使用していた場合は、実行結果が異なる場合があります。

ただし、本影響があるのはV10.2.0以降で再翻訳した場合に限ります。

1. SQL宣言節内にSQLSTATEが構文規則どおりに定義されている。かつ、
2. SQL宣言節外にSQLCODE、SQLERRDまたはSQLMSGが構文規則どおりに定義されている。かつ、
3. SQL文が実行される。かつ、
4. 手続き部でSQLCODE、SQLERRDまたはSQLMSGが参照される。かつ、
5. 1.~4.が同一翻訳単位内に記述されている。

対処方法

SQL宣言節外に定義されたSQLCODE、SQLMSG、またはSQLERRDの名前を変更してください。

2.1.2 規定外の外部10進項目同士の加減算の演算結果について

変更内容

以下の条件を満たす算術文がある場合、V10.1.0とV10.2.0以降で演算結果が異なります。

1. 加算または減算の二項演算の算術文である。かつ、
2. 結果の一意名の数は、1つのみである。かつ、
3. [NOT] ON SIZE ERRORの指定がない。かつ、
4. ROUNDED指定がない。かつ、
5. 2つの作用対象のいずれもが、全桁数が16桁から18桁の外部10進項目である。かつ、
6. 二項演算の中間結果(注)の精度が17桁から19桁である。かつ、

7. 2つの作用対象のいずれかの内部表現が外部10進項目として誤っている。

注：中間結果の精度については、“COBOL文法書”の“D.2 四則演算の中間結果”を参照してください。



例

```

WORKING-STORAGE SECTION.
01 DATA-ZONE1 PIC S9(18).
01 DATA-ZONE2 PIC S9(18).
01 DATA-2 REDEFINES DATA-ZONE2 PIC X(18).
01 DATA-ZONE3 PIC S9(18).
01 DATA-3 REDEFINES DATA-ZONE3 PIC X(18).

PROCEDURE DIVISION.
MOVE X"FFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFF" TO DATA-2 DATA-3 . . . ア
COMPUTE DATA-ZONE1 = DATA-ZONE2 + DATA-ZONE3
DISPLAY DATA-ZONE1
    
```

上記のプログラムでは、外部10進項目に英数字項目の記憶領域を割り当てます。'ア'の転記を実行すると、DATA-ZONE2とDATA-ZONE3には外部10進項目として誤った内部表現 (0xFFFF...FFFF) が設定されます。

- V10.1.0の結果

+333333333333333330

- V10.2.0以降の結果

+545555555455555554

対処方法

外部10進項目として誤った内部表現が設定されている作用対象を含む算術文の結果は規定されていません。誤った内部表現を設定している箇所を修正してください。

外部10進項目の正しい内部表現の概要は次の通りです。

データ項目	ゾーン部	数字部	符号部
外部10進 (SEPARATEあり)	3	0~9	2B,2D
外部10進 (SEPARATEなし)	3		4,5



参照

“COBOL文法書”の“5.4.15 USAGE句”

“NetCOBOL使用手引書”の“L.2 数字項目の標準規則”

2.1.3 障害修正に関する互換情報について

ここでは、NetCOBOL開発環境について、NetCOBOL V10.2.0以降で修正された障害により動作が変わるものを、以下の表で説明します。

表2.1 NetCOBOL開発環境の障害修正に関する互換情報

項番	VL(*)	P番号	変更内容
1	V10.1.0	PG77383	以下の条件の場合、実行時に、正しい結果が得られないことがある問題を修正しました。 1. 翻訳オプションOPTIMIZEが有効である。(*1)かつ、 2. 内部10進項目を数字編集項目へ設定している文を記述している。かつ、

項番	VL(*)	P番号	変更内容																		
			<p>3. 内部10進項目と数字編集項目のけた数は、「整数部のけた数が同じ、かつ、小数部がない」である。かつ、</p> <p>4. 数字編集項目は、編集方法にゼロ抑制のみを指定している (PICTUREの文字列には'9','Z','*'のみを使用している)。かつ、</p> <p>5. 2.の文の前に、データ項目 (または中間結果)を2.の内部10進項目へ設定する文(*2)を記述している。かつ、</p> <p>6. 5.のデータ項目 (または中間結果)のけた数と2.の内部10進項目のけた数の関係が次のようになっている。かつ、</p> <table border="1" data-bbox="576 555 1469 927"> <thead> <tr> <th data-bbox="639 584 986 629">データ項目 (または中間結果)</th> <th data-bbox="1054 584 1187 629">内部10進項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td data-bbox="746 651 762 674">2</td><td data-bbox="1086 651 1102 674">3</td></tr> <tr><td data-bbox="746 680 762 703">4</td><td data-bbox="1086 680 1102 703">5</td></tr> <tr><td data-bbox="746 710 762 732">6</td><td data-bbox="1086 710 1102 732">7</td></tr> <tr><td data-bbox="746 739 762 761">8</td><td data-bbox="1086 739 1102 761">9</td></tr> <tr><td data-bbox="735 768 774 790">10</td><td data-bbox="1075 768 1114 790">11</td></tr> <tr><td data-bbox="735 797 774 819">12</td><td data-bbox="1075 797 1114 819">13</td></tr> <tr><td data-bbox="735 826 774 848">14</td><td data-bbox="1075 826 1114 848">15</td></tr> <tr><td data-bbox="735 855 774 878">16</td><td data-bbox="1075 855 1114 878">17</td></tr> </tbody> </table> <p>7. 5.のデータ項目 (または中間結果)と2.の内部10進項目の両方に小数部がない。</p> <p>*1:デフォルトの翻訳オプションはNOOPTIMIZEです。</p> <p>*2:数字転記はMOVE文だけでなく、COMPUTE文などの暗黙に転記が発生する場合も該当します。</p>	データ項目 (または中間結果)	内部10進項目	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
データ項目 (または中間結果)	内部10進項目																				
2	3																				
4	5																				
6	7																				
8	9																				
10	11																				
12	13																				
14	15																				
16	17																				
2	V10.1.0	PG78440	<p>以下の条件の場合、実行時に、正しい結果が得られないことがある問題を修正しました。</p> <p>1. 翻訳オプションBINARY(BYTE)またはBINARY(WORD,MLBOFF)が指定されている。かつ、</p> <p>2. 以下の組み込み関数が存在する。かつ、</p> <p>[A]</p> <ul style="list-style-type: none"> — FUNCTION MAX — FUNCTION MIN — FUNCTION MEAN — FUNCTION MEDIAN — FUNCTION RANGE <p>[B]</p> <ul style="list-style-type: none"> — FUNCTION ANNUITY — FUNCTION NUMVAL — FUNCTION NUMVAL-C — FUNCTION RANDOM <p>3. 2.の関数の引数が、全て9桁以下の固定小数点数字である。かつ、</p> <p>4. 2.の関数が[A]の場合、引数が4つ以上指定されている。</p>																		

*:VLは、障害が存在する範囲を示します。

2.2 NetCOBOL運用環境

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ

2.2.1 障害修正に関する互換情報について

ここでは、NetCOBOL運用環境について、NetCOBOL V10.2.0以降で修正された障害により動作が変わるものを、以下の表で説明します。

表2.2 NetCOBOL運用環境の障害修正に関する互換情報

項番	VL(*)	P番号	変更内容
1	V10.1.0	PG77099	<p>以下の条件の場合、実行環境変数@CBR_SSIN_FILE=THREADが有効にならず、ACCEPT文のファイル入力で、プロセスで1つの入力ファイルが共有される問題を修正しました。(注)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マルチスレッドで動作するアプリケーションである。かつ、 2. 実行環境変数@CBR_SSIN_FILE=THREADを指定している。かつ、 3. ACCEPT文を実行しファイルからデータを入力した。 <p>注: 実行環境変数@CBR_SSIN_FILE=THREADを指定した場合、ACCEPT文のファイル入力で、スレッド単位に入力ファイルをオープンすることができます。</p>
2	V10.1.0	PG73346	<p>以下の条件の場合、実行時に、実行時メッセージJMP0320I-I/Uに埋め込まれる8桁の16進文字の低位4桁に不要なゼロ列が設定される問題を修正しました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. COBOLファイルシステム(注)を使用したファイル操作を行っている。かつ、 2. 以下のいずれかの入出力文を実行している。かつ、 <ul style="list-style-type: none"> — READ文 — WRITE文 — REWRITE文 — DELETE文 — START文 3. 2の入出力文の実行が失敗した。 <p>注: ファイルの高速処理(BSAM)を指定している場合、該当しません。</p>
3	V10.1.0	PG79852	<p>以下の条件の場合、COBOLアプリケーションの実行中にアプリケーションエラーまたは実行時メッセージが発生した時、診断機能において、診断レポートを出力する前に以下の予期せぬメッセージが出力される問題を修正しました。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ドライブにディスクがありません。ディスクをドライブに挿入してください。</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境変数@CBR_JUSTINTIME_DEBUG=NOが設定されていない。かつ、 2. 診断対象であるプロセスで動作するロードモジュールにデバッグ情報ファイル(PDBファイル)(注)を作成しているものがある。かつ、 3. 2.で示したロードモジュールの格納されたフォルダに2.で示したデバッグ情報ファイルが存在しない。かつ、 4. NetCOBOLを使用しているシステムにおいて、仮想CDドライブのマウント解除などにより、現在は参照できない状態のドライブがある。かつ、 5. 2.で示したデバッグ情報ファイルを作成したドライブと、4.で示した参照できない状態のドライブのドライブ文字が一致している。

項番	VL(*)	P番号	変更内容
			注:デバッグ情報ファイル(PDBファイル)は、リンクコマンドにリンクオプション"/DEBUG"を指定した場合に作成されます。
4	V10.1.0	PG79859	<p>以下の条件の場合、NetCOBOL Studioのリモートデバッグ機能を使用してCOBOLアプリケーションをデバッグした時、デバッグ中に以下の予期せぬメッセージが出力される問題を修正しました。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ドライブにディスクがありません。ディスクをドライブに挿入してください。</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> 1. NetCOBOL Studioのリモートデバッグ機能でCOBOLアプリケーションをデバッグしている。かつ、 2. デバッグ対象プロセスで動作するロードモジュールにデバッグ情報ファイル(PDBファイル)(注)を作成しているものがある。かつ、 3. 2.で示したロードモジュールの格納されたフォルダに2.で示したデバッグ情報ファイルが存在しない。かつ、 4. NetCOBOLを使用しているシステムにおいて、仮想CDドライブのマウント解除などにより、現在は参照できない状態のドライブがある。かつ、 5. 2.で示したデバッグ情報ファイルを作成したドライブと、4.で示した参照できない状態のドライブのドライブ文字が一致している。 <p>注:デバッグ情報ファイル(PDBファイル)は、リンクコマンドにリンクオプション"/DEBUG"を指定した場合に作成されます。</p>

*:VLは、障害が存在する範囲を示します。

2.3 MeFt

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ

2.3.1 移行時の注意事項

ここでは、32ビット版およびItanium 64ビット版のMeFtから、本版製品へ移行した際の注意事項について記載します。

帳票資産の互換性

32ビット版およびItanium 64ビット版のMeFtで使用していた帳票資産(画面帳票定義体、帳票定義体、オーバレイ定義体)には互換がありそのまま使用できますが、OSおよびプリンタ環境の違いにより、出力結果については微妙に異なる場合があります。

環境変数

32ビット版およびItanium 64ビット版のMeFtのインストール時に設定していた以下の環境変数については、本製品では設定を行いません。

- LIB (ライブラリの格納フォルダ)
- INCLUDE (インクルードの格納フォルダ)

C言語での利用者プログラムの開発時には、ソリューションのプロパティで以下の格納フォルダを指定してください。

- ライブラリの格納フォルダ:製品のインストールフォルダ¥Lib
- インクルードの格納フォルダ:製品のインストールフォルダ¥Include

2.3.2 制限事項

Windows(x64)版の本製品では、以下の機能は未サポートです。

文字コード

文字コードとして、EBCDICおよびJEFは使用できません。使用した場合は、MEFD_RC_OPMDA(44)のエラーとなります。また、関連する以下のキーワードは無効となります。

JEFEXTN (JEF拡張漢字サポートの有無)
EUCGAJJI (外字複写元位置)
JISTYPE (JIS年式指定)
ASPEBCCONV (ASP互換用コード変換ルーチン使用指定)

画面機能

画面機能はすべて使用することができません。使用した場合は、MEFD_RC_OPEN(10)エラーとなります。

印刷機能

— DDOVL (機種依存オーバーレイ使用指定)は使用することができません。指定した場合は、MEFP_DDOVLLD(9E)のエラーとなります。

— 画像ファイルの印刷 (OLEの印刷)

画像ファイルの印刷を行う場合、OLEは印刷できません。OLEの印刷を行った場合は、MEFD_RC_OLELOAD(9A)のエラーとなります。

— 多目的プリンタ機能

多目的プリンタ機能は使用できません。使用した場合は、MEFP_RC_IMLOAD(9B)のエラーとなります。また、関連するプリンタ情報ファイルの以下のキーワードは無効となります。

PRTACS (印刷形態)
UPSIZE (上端寸法)
UNLOAD (排出口指定)

— 帳票の電子化

帳票の電子化は行えません。使用した場合は、MEFP_RC_STREAMLOAD(9H)のエラーとなります。また、関連するプリンタ情報ファイルの以下のキーワードは無効となります。

STREAM (ストリーム種別指定)
STREAMENV (管理情報ファイル名指定)
STREAMFILE (ストリーム出力ファイル名指定)

— XML入出力処理

XMLでの入出力は行えません。使用した場合は、MEFP_RC_STREAMLOAD(9H)のエラーとなります。また、関連するプリンタ情報ファイルの以下のキーワードは無効となります。

STREAM (ストリーム種別指定)
STREAMFILE (ストリーム出力ファイル名指定)

他システムとの連携

- MeFt/NETとの連携は行えません。
- MeFt/Webとの連携は行えません。
- リモート表示ファイルサービスとの連携は行えません。

プログラムインタフェース

- Visual Basic
プログラムインタフェースとしてVisual Basicは利用できません。

— アプリケーションの起動 (ps_exec)

アプリケーションの起動 (ps_exec) インタフェースは利用できません。

2.3.3 障害修正に関する互換情報について

ここでは、MeFtについて、NetCOBOL V10.2.0以降で修正された障害により動作が変わるものを、以下の表で説明します。

表2.3 MeFtの障害修正に関する互換情報

項番	V/L(*)	P番号	変更内容
1	V10.1.0	PG77027	<p>[変更内容1]</p> <p>以下の条件の時、本来、次行に送り出されるべきでない文字列が次行に送り出される問題を修正しました。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 矩形混在項目または矩形英数字項目のプロパティで「句読点のぶら下げ」または「行頭／行末禁則」のいずれかをONにした。かつ、2. 「ワードラップ」をONにした。かつ、3. 項目内のいずれかの行の末尾が空白である。かつ、4. 3.の行末尾の空白の直前がASCIIコードで0x21～0x7Eの範囲の文字が2個以上連続している。かつ、5. 4.の文字列の直前が空白文字である。かつ、6. 5.の空白の前に空白以外の文字が存在する。 <p>[変更内容2]</p> <p>以下の条件の時、本来、複数行に分割されるべきでない文字列が分割される問題を修正しました。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 矩形混在項目または矩形英数字項目のプロパティで「行頭／行末禁則」をONにし「行頭および行末」または「行末のみ」を指定した。かつ、2. 「ワードラップ」をONにした。かつ、3. 項目内のいずれかの行でワードラップや行頭・行末禁則による追い出しが発生した。かつ、4. 3.の追い出しを行ったあと、行末尾が空白となる。かつ、5. 4.の直前がASCIIコードで0x21～0x7Eの範囲の行末禁則文字である。かつ、6. 5.の直前がASCIIコードで0x21～0x7Eの範囲の文字である。かつ、7. 6.の文字列の直前が空白である。かつ、8. 7.の空白の前に空白以外の文字が存在する。 <p>[備考]</p> <p>変更内容2については、実行時に、以下の環境変数を指定することで修正が有効となります。</p> <p>環境変数:MEFTWRAPCONTROL 設定値:2</p> <p>例) バッチファイルで、環境変数"MEFTWRAPCONTROL"に値"2"を設定する場合 set MEFTWRAPCONTROL=2</p>

*:V/Lは、障害が存在する範囲を示します。

2.4 SIMPLIA/COBOL支援キット

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ

互換に関する情報はありません。

2.5 PowerSORT

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ

PowerSORTの互換に関する情報は、“PowerSORT ユーザーズガイド”を参照してください。

2.6 Jアダプタクラスジェネレータ

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ

互換に関する情報はありません。

2.7 FORM

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ

FORMの互換に関する情報は、“FORM 説明書”を参照してください。

第3章 プログラム修正一覧

ここでは、本バージョン・レベルで修正された障害修正の情報を説明します。

3.1 NetCOBOL開発環境

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ

表3.1 NetCOBOL開発環境のプログラム修正一覧

項番	V/L(*)	P番号	現象
1	V10.1.0	PG70346	<p>以下の条件の場合、NetCOBOL Studioのプロジェクトの[リモート開発]ページにて、サーバディレクトリの[参照]ボタンを押下してディレクトリを選択すると「ファイル"{0}"のパスに誤りがあるため、オープンできません。」という不適切なエラーメッセージが表示されることがあります。</p> <ol style="list-style-type: none">リモート開発で使用するサーバのディレクトリに、ユーザのアクセス権拒否が設定されている。かつ、リモート開発対象のプロジェクトのプロパティから[リモート開発]ページを開く。かつ、[サーバ]のコンボボックスからサーバを選択する。かつ、[参照]ボタンを押下して、1.で示したディレクトリを選択し[OK]ボタンを押す。
2	V10.1.0	PG72245	<p>以下の条件の場合、NetCOBOL Studioでリモート開発のための設定を有効にした状態でローカルビルドを実施した場合、ビルドに失敗することがあります。</p> <ol style="list-style-type: none">NetCOBOL StudioでCOBOLプロジェクトを作成した。かつ、プロジェクトに対して、プリコンパイラ連携情報([プロパティ]-[ビルドツール]-[プリコンパイラ])を設定した。かつ、プロジェクトに対して、リモート開発設定([プロパティ]-[リモート開発])を行った。かつ、プロジェクトに対して、リモート開発のためのプリコンパイラ連携情報が一度も設定されていない([リモート開発]-[メイクファイル生成]-[オプション設定]-[プリコンパイラ])。かつ、プロジェクトのビルドを実行した。
3	V10.1.0	PG70339	<p>以下の条件の場合、NetCOBOL Studioで特定のCOBOLプログラムソースをオープンすると、待ち状態が20分以上続くことがあります。</p> <ol style="list-style-type: none">次の文字列をCOBOLソース内の、登録集名、データ名または定数の文字列などの一部または全部に、独立したトークンとして記述する。<ul style="list-style-type: none">PROGRAM-IDCLASS-IDMETHOD-ID
4	V10.1.0	PG71240	<p>以下の条件の場合、INSDBINFコマンドが誤って以下のメッセージを出力します。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>正しい行情報およびファイル名制御情報を出力することができませんでした。入力ファイルまたはオプションを確認してください。</p></div> <ol style="list-style-type: none">Pro*COBOLを使用している。かつ、Pro*COBOLの入力ソースに、Pro*COBOLが展開するキーワード(注)が記述されている。かつ、

項番	V/L(*)	P番号	現象
			<p>3. 条件2.の行の標識領域に"/"または"D"を記述して注記行としている。 注:SQL文、疑似型のデータなど。</p>
5	V10.1.0	PG71241	<p>以下の条件の場合、INSDBINFコマンドが誤って以下のメッセージを出力します。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>正しい行情報およびファイル名制御情報を出力することができませんでした。入力ファイルまたはオプションを確認してください。</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> 1. Pro*COBOLを使用している。かつ、 2. Pro*COBOLの入力ソースファイルの改行コードがLFである、かつ、 3. EXEC SQL文をSQL先頭子("EXEC SQL")と命令文を複数行に分けて記述している。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>例) EXEC SQL INCLUDE INCFIL END-EXEC</p> </div>
6	V10.1.0	PG71243	<p>以下の条件の場合、INSDBINFコマンドが誤って以下のメッセージを出力します。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>指定されたインクルードファイルが存在しません。</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> 1. Pro*COBOLを使用している。かつ、 2. INCLUDE文を使用している。かつ、 3. インクルードファイルの指定をクォーテーション(シングルクォーテーションまたはダブルクォーテーション)で囲んで指定している。 <p>または、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Pro*COBOLを使用している。かつ、 2. INCLUDE文を使用している。かつ、 3. インクルードファイルの指定を拡張子なしパス指定で指定している。かつ、 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>例1) INCLUDE D:¥INCLUDE_DIR¥INCF 例2) INCLUDE ..¥INCLUDE_DIR¥INCF</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> 4. INSDBINFコマンドオプション-Sでインクルードファイルの拡張子を指定している。
7	V10.1.0	PG71244	<p>以下の条件の場合、INSDBINFコマンドが誤って以下のメッセージを出力します。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>指定されたインクルードファイルが存在しません。</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> 1. Pro*COBOLを使用している。かつ、 2. INCLUDE文を使用している。かつ、 3. INCLUDEとインクルードファイル名を別々の行に記述し、文字列INCLUDEの直後で改行している。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>例) EXEC SQL INCLUDE▼ INCFIL END-EXEC ※▼改行</p> </div>
8	V10.1.0	PG72054	<p>以下の条件の場合、INSDBINFコマンドが誤って以下のメッセージを出力します。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>正しい行情報およびファイル名制御情報を出力することができませんでした。入力ファイルまたはオプションを確認してください。</p> </div>

項番	V/L(*)	P番号	現象
			<p>1. Pro*COBOLを使用している。かつ、</p> <p>2. Pro*COBOLの入力ソースに、EXEC SQL文を複数行に渡って記述している。かつ、</p> <p>3. 条件2.に当てはまるEXEC SQL文中に5カラムまたは6カラム(注)の行がある。</p> <p>— 例1) 複数行に渡って記述されたEXEC SQL文中に5カラムの行がある場合</p> <pre> -----1-----2-----3-----4 000090 EXEC SQL 000100 SELECT ENAME FROM EMP 000110▼ 000120 WHERE ESAL > 3000 000130 END-EXEC ▼…改行コードを表します。 </pre> <p>— 例2) 複数行に渡って記述されたEXEC SQL文中に6カラムの行がある場合</p> <pre> -----1-----2-----3-----4 000090 EXEC SQL 000100 SELECT ENAME FROM EMP 000110▼ 000120 WHERE ESAL > 3000 000130 END-EXEC ▼…改行コードを表します。 </pre> <p>注:改行コードは含みません。</p>
9	V10.1.0	PG74245	<p>以下の条件の場合、翻訳時異常終了することがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手続き部の規模が比較的大きい(約1万行以上(注))プログラムである。かつ、 2. オブジェクト指定子を使用している。 <p>注:1万行以上は目安です。プログラムの書き方によっては、1万行以下で発生する可能性もあります。ただし、1行に複数の文を書くようなことをしない標準的な形式のプログラムであれば、数万行以上でなければ、異常終了する可能性は極めて低いです。</p>
10	V10.1.0	PG77217	<p>以下の条件で作成された実行形式ファイルを対話型デバッガでデバッグする場合、対話型デバッガがアベンドするため、デバッグが開始できません。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. COPY文で登録集を取り込んでいる。かつ、 2. 取り込んだCOPY登録集が手続き部見出しのみである。かつ、 3. 1.と2.にあてはまるソースプログラムを、翻訳オプションTESTを指定して翻訳した。
11	V10.1.0	PG73470	<p>以下の条件の場合、翻訳時に誤った指摘メッセージ(JMN9333I-W (STD)CALL文中のUSING句に指定した作用対象の個数は5個以下でなければなりません。処理を続行します。)が出力されることがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 翻訳オプションFLAGSW(STDM)またはFLAGSW(STDI)を指定している。かつ、 2. CALL文にUSING指定を記述している。かつ、 3. USINGに指定したパラメタが5個以下の一意名である。かつ、 4. 3.の一意名に添字または部分参照を1個以上指定している。かつ、 5. 4.の添字または部分参照に一意名を指定している。かつ、

項番	V/L(*)	P番号	現象
			6. 3と5の一意名の個数の合計が6個以上である。
12	V10.1.0	PG77463	<p>以下の条件の場合、翻訳時にCOBOLコンパイラが以下のメッセージを出力して異常終了することがあります。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「プログラム名 x x x」 0: JMN01021-U 翻訳処理が続行不可能となりました。 他の診断メッセージが表示されている場合は、それらを修正して、再度翻訳してみてください。(区名=JMNRL, モジュール名=SABEMAC, 詳細コード=6202, 行情報=y y.)</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> 1. 表示ファイル機能を使用している。かつ、 2. 表示ファイルの特殊レジスタ(注)を比較条件の作用対象に指定している。かつ、 3. 2.の特殊レジスタを日本語項目で修飾している。 <p>注:表示ファイルの特殊レジスタ</p> <ul style="list-style-type: none"> • EDIT-MODE • EDIT-OPTION • EDIT-OPTION2 • EDIT-OPTION3 • EDIT-COLOR • EDIT-STATUS • EDIT-CURSOR
13	V10.1.0	PG78440	<p>以下の条件の場合、実行時に正しい結果が得られないことがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 翻訳オプションBINARY(BYTE)またはBINARY(WORD,MLBOFF)が指定されている。かつ、 2. 以下の組み込み関数が存在する。かつ、 <ul style="list-style-type: none"> [A] <ul style="list-style-type: none"> — FUNCTION MAX — FUNCTION MIN — FUNCTION MEAN — FUNCTION MEDIAN — FUNCTION RANGE [B] <ul style="list-style-type: none"> — FUNCTION ANNUITY — FUNCTION NUMVAL — FUNCTION NUMVAL-C — FUNCTION RANDOM 3. 2.の関数の引き数が、全て9桁以下の固定小数点数字である。かつ、 4. 2.の関数が[A]の場合、引き数が4つ以上指定されている。
14	V10.1.0	PG78833	<p>以下の条件の場合、翻訳時にCOBOLコンパイラが次のメッセージを出力して異常終了することがあります。</p>

項番	V/L(*)	P番号	現象
			<p>「プログラム名 x x x」 0: JMN0102I-U 翻訳処理が続行不可能となりました。他の診断メッセージが表示されている場合は、それらを修正して、再度翻訳してみてください。(区名=JMNRL, モジュール名=SABEMAC, 詳細コード=6202, 行情報=y y.)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 翻訳オプションBINARY(BYTE)が有効である。かつ、 2. 翻訳オプションCHECK(NUMERIC)またはCHECK(ALL)が有効である。かつ、 3. 手続き部内に、添字付けおよび部分参照付けを使用した文がある。かつ、 4. 3.の文の添字、部分参照の最左端文字位置、または部分参照の長さのいずれかにUSAGE COMP-5の2進データ項目を指定している。かつ、 5. 4.の2進データ項目の桁数が10桁～16桁である。 <p>または、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 翻訳オプションBINARY(BYTE)が有効である。かつ、 2. 外部プログラムを呼び出すUSING BY VALUE指定のCALL文が存在する。かつ、 3. 2.CALL文にUSING BY VALUE指定のデータ項目がCOMP-5の2進項目である。かつ、 4. 3.の2進データ項目の桁数が10桁～16桁である。
15	V10.1.0	PG79260	<p>以下の環境・条件の場合、対Windows(x64)サーバに対するNetCOBOL Studioからのメイクファイル生成において、以下のメッセージが出力されてWindows(x64)サーバ上に正しいメイクファイルが生成されないことがあります。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>cobmkmf ERROR : 'nmake' コマンドの実行に失敗しました。処理を中断します。</p> </div> <p>[環境]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. サーバ側のWindows(x64)システムに“Windows(x64)版 NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ V10.1.0”をインストールしている。かつ、 2. クライアント側のWindowsシステムに“Windows(x86)版 NetCOBOLシリーズ開発パッケージ V10.1.0”をインストールしている。 <p>[条件]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Windows(x64)サーバの環境変数PATHにnmakeコマンド(nmake.exe)(*1)の格納フォルダが設定されていない。かつ、 2. クライアント側のNetCOBOL Studioで、[プロジェクト]メニュー → [リモート開発] → [メイクファイル生成]を実行して、Windows(x64)サーバ上にメイクファイルを生成する。 <p>*1:nmakeコマンドは、Microsoft社のWindows SDKに含まれています。</p>
16	V10.1.0	PG77383	<p>以下の条件の場合、実行時に正しい結果が得られないことがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 翻訳オプションOPTIMIZEが有効である。(*1)かつ、 2. 内部10進項目を数字編集項目へ設定している文を記述している。かつ、 3. 内部10進項目と数字編集項目のけた数は、「整数部のけた数が同じ、かつ、小数部がない」である。かつ、 4. 数字編集項目は、編集方法にゼロ抑制のみを指定している(PICTUREの文字列には'9','Z','*'のみを使用している)。かつ、 5. 2.の文の前に、データ項目(または中間結果)を2.の内部10進項目へ設定する文(*2)を記述している。かつ、

項番	V/L(*)	P番号	現象																		
			<p>6. 5.のデータ項目 (または中間結果) のけた数と2.の内部10進項目のけた数の関係が次のようになっている。かつ、</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>データ項目 (または中間結果)</th> <th>内部10進項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>2</td><td>3</td></tr> <tr><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>6</td><td>7</td></tr> <tr><td>8</td><td>9</td></tr> <tr><td>10</td><td>11</td></tr> <tr><td>12</td><td>13</td></tr> <tr><td>14</td><td>15</td></tr> <tr><td>16</td><td>17</td></tr> </tbody> </table> <p>7. 5.のデータ項目 (または中間結果) と2.の内部10進項目の両方に小数部がない。</p> <p>*1: デフォルトの翻訳オプションはNOOPTIMIZEです。</p> <p>*2: 数字転記はMOVE文だけでなく、COMPUTE文などの暗黙に転記が発生する場合も該当します。</p>	データ項目 (または中間結果)	内部10進項目	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
データ項目 (または中間結果)	内部10進項目																				
2	3																				
4	5																				
6	7																				
8	9																				
10	11																				
12	13																				
14	15																				
16	17																				
17	V10.1.0	PG79472	<p>以下の条件の場合、翻訳時に以下のメッセージを出力して異常終了することがあります。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「プログラム名 x x x」 0: JMN0102I-U 翻訳処理が続行不可能となりました。他の診断メッセージが表示されている場合は、それらを修正して、再度翻訳してみてください。(区名=JMNRL, モジュール名=SABEMAC, 詳細コード=5460, 行情報=y y.)</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> 1. 二項演算の加減算がある。かつ、 2. 1.の作用対象の一意名は符号付き内部10進または符号付き外部10進である。かつ、 3. 1.の作用対象の一意名は桁数が同じである。かつ、 4. 1.の結果の一意名は、1.の作用対象の一方と同じ一意名である。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>[例]</p> <p>01 A PIC S9(4) COMP-3. 01 B PIC S9(4) COMP-3. 01 C PIC S9(4) DISPLAY. 01 D PIC S9(4) DISPLAY. : COMPUTE A = A + B. SUBSTRUCT C FORM D.</p> </div>																		
18	V10.1.0	PG79150	<p>以下の条件の場合、翻訳時にメッセージを出力しないで異常終了することがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 翻訳オプションOPTIMIZEが有効である。かつ、 2. 手続き部で、以下の一意名を使用している(*1)。 <ol style="list-style-type: none"> a. 添字付けをしているデータ項目 b. 部分参照をしているデータ項目 c. 可変反復データ項目 d. 可変反復データ項目と同じ集団項目に含まれるデータ項目 <p>*1: 翻訳時のメモリの状態に依存するため、条件に一致しても異常終了しないことがあります。</p>																		

*:V/Lは障害が存在する範囲を示します。

3.2 NetCOBOL運用環境

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ

表3.2 NetCOBOL運用環境のプログラム修正一覧

項番	V/L(*)	P番号	現象
1	V10.1.0	PG77099	<p>以下の条件の時、実行環境変数@CBR_SSIN_FILE=THREADが有効にならず、ACCEPT文のファイル入力で、プロセスで1つの入力ファイルが共有されます。これにより、意図したデータを読み込むことができません。また、入力ファイルのデータ件数が少ない(スレッド数×ACCEPT文実行数を下回る)場合、実行時エラーメッセージJMP0200I-Eが出力され、ACCEPT文のファイル入力に失敗します。</p> <p>(注)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マルチスレッドで動作するアプリケーションである。かつ、 2. 実行環境変数@CBR_SSIN_FILE=THREADを指定している。かつ、 3. ACCEPT文を実行しファイルからデータを入力した。 <p>注: 実行環境変数@CBR_SSIN_FILE=THREADを指定した場合、ACCEPT文のファイル入力で、スレッド単位に入力ファイルをオープンすることができます。</p>
2	V10.1.0	PG73346	<p>以下の条件の場合、実行時に、実行時メッセージJMP0320I-I/Uに埋め込まれる8桁の16進文字の下位4桁に不要なゼロ列が設定されることがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. COBOLファイルシステム(注)を使用したファイル操作を行っている。かつ、 2. 以下のいずれかの入出力文を実行している。かつ、 <ul style="list-style-type: none"> — READ文 — WRITE文 — REWRITE文 — DELETE文 — START文 3. 2の入出力文の実行が失敗した。 <p>注: ファイルの高速処理(BSAM)を指定している場合、該当しません。</p>
3	V10.1.0	PG73242	<p>以下の条件の場合、実行時に、以下のメッセージを出力してCOBOLアプリケーションが終了することがあります。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>“致命的なアプリケーション終了 : 領域確保に失敗しました MSGNO=65535 ERR=9d”</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> 1. DISPLAY文に機能名SYSERRに対応付けた呼び名を記述している。かつ、 2. DISPLAY文の出力先を次のいずれかにしている。かつ、 <ul style="list-style-type: none"> — 標準エラー出力 — ファイル(@MessOutFileに指定されたファイル) 3. 環境変数"@CBR_SYSERR_EXTEND"を指定していない。かつ、 4. DISPLAY文に指定されたデータの1024×n+1バイト目がLOW-VALUE("00")である。(n=0,1,~)

項番	V/L(*)	P番号	現象
4	V10.1.0	PG79852	<p>以下の条件の場合、COBOLアプリケーションの実行中にアプリケーションエラーまたは実行時メッセージが発生した時、診断機能において、診断レポートを出力する前に以下の予期せぬメッセージが出力されることがあります。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">ドライブにディスクがありません。ディスクをドライブに挿入してください。</div> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境変数@CBR_JUSTINTIME_DEBUG=NOが設定されていない。かつ、 2. 診断対象であるプロセスで動作するロードモジュールにデバッグ情報ファイル(PDBファイル)(注)を作成しているものがある。かつ、 3. 2.で示したロードモジュールの格納されたフォルダに2.で示したデバッグ情報ファイルが存在しない。かつ、 4. NetCOBOLを使用しているシステムにおいて、仮想CDドライブのマウント解除などにより、現在は参照できない状態のドライブがある。かつ、 5. 2.で示したデバッグ情報ファイルを作成したドライブと、4.で示した参照できない状態のドライブのドライブ文字が一致している。 <p>注: デバッグ情報ファイル(PDBファイル)は、リンクコマンドにリンクオプション"/DEBUG"を指定した場合に作成されます。</p>
5	V10.1.0	PG79859	<p>以下の条件の場合、NetCOBOL Studioのリモートデバッグ機能を使用してCOBOLアプリケーションをデバッグした時、デバッグ中に以下の予期せぬメッセージが出力されることがあります。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">ドライブにディスクがありません。ディスクをドライブに挿入してください。</div> <ol style="list-style-type: none"> 1. NetCOBOL Studioのリモートデバッグ機能でCOBOLアプリケーションをデバッグしている。かつ、 2. デバッグ対象プロセスで動作するロードモジュールにデバッグ情報ファイル(PDBファイル)(注)を作成しているものがある。かつ、 3. 2.で示したロードモジュールの格納されたフォルダに2.で示したデバッグ情報ファイルが存在しない。かつ、 4. NetCOBOLを使用しているシステムにおいて、仮想CDドライブのマウント解除などにより、現在は参照できない状態のドライブがある。かつ、 5. 2.で示したデバッグ情報ファイルを作成したドライブと、4.で示した参照できない状態のドライブのドライブ文字が一致している。 <p>注: デバッグ情報ファイル(PDBファイル)は、リンクコマンドにリンクオプション"/DEBUG"を指定した場合に作成されます。</p>

*: V/Lは障害が存在する範囲を示します。

3.3 MeFt

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ

表3.3 MeFtのプログラム修正一覧

項番	V/L(*)	P番号	現象
1	V10.1.0	PG66643	<p>以下の条件の時、プレビューまたは印刷時に項目領域長を超えて文字が出力される場合があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 項目の文字ピッチが指定されていない。かつ、

項番	V/L(*)	P番号	現象
			<p>2. 日本語のフォント種として固定ピッチフォント(「MS 明朝」など)が指定されている。かつ、</p> <p>3. プリンタ情報ファイルに"CORRECTPOS FLD"を指定しデータが項目領域長を超える場合、または"CORRECTPOS ALL"が指定されている。</p>
2	V10.1.0	PG68586	<p>以下の条件の時、MeFtの印刷で帳票印刷ダイアログが表示されると、その後の日本語入力が異常となる場合があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. MS-IMEやCharsetMGRの入力アシストを使用している画面がある。かつ、 2. 同一プロセスで帳票印刷を行った。かつ、 3. 印刷ダイアログを表示した場合(MeFt/Webの場合は必ず表示されます)。 <p>なお、上記条件をすべて満たした場合でも現象が発生しないこともあります。</p>
3	V10.1.0	PG68485	<p>以下の条件の時、「"f3bjprvw" Directory 作業フォルダ名 is not found.」のエラーメッセージが表示されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. MeFtが使用する作業フォルダ名(注)に全角文字の下位バイトコードが0x40(シフトJIS)の文字がある。かつ、 2. 印刷プレビュー機能を実行した。 <p>注: 作業フォルダ名は環境変数で指定し、以下の優先順位で決定されます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">MEFTTMP > TMP > TEMP</div>
4	V10.1.0	PG77027	<p>[現象1]</p> <p>以下の条件の時、本来、次行に送り出されるべきでない文字列が次行に送り出されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 矩形混在項目または矩形英数字項目のプロパティで「句読点のぶら下げ」または「行頭/行末禁則」のいずれかをONにした。かつ、 2. 「ワードラップ」をONにした。かつ、 3. 項目内のいずれかの行の末尾が空白である。かつ、 4. 3.の行末尾の空白の直前がASCIIコードで0x21~0x7Eの範囲の文字が2個以上連続している。かつ、 5. 4.の文字列の直前が空白文字である。かつ、 6. 5.の空白の前に空白以外の文字が存在する。 <p>[現象2]</p> <p>以下の条件の時、本来、複数行に分割されるべきでない文字列が分割されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 矩形混在項目または矩形英数字項目のプロパティで「行頭/行末禁則」をONにし「行頭および行末」または「行末のみ」を指定した。かつ、 2. 「ワードラップ」をONにした。かつ、 3. 項目内のいずれかの行でワードラップや行頭・行末禁則による追い出しが発生した。かつ、 4. 3.の追い出しを行ったあと、行末尾が空白となる。かつ、 5. 4.の直前がASCIIコードで0x21~0x7Eの範囲の行末禁則文字である。かつ、 6. 5.の直前がASCIIコードで0x21~0x7Eの範囲の文字である。かつ、 7. 6.の文字列の直前が空白である。かつ、 8. 7.の空白の前に空白以外の文字が存在する。

項番	V/L(*)	P番号	現象
			<p>[備考]</p> <p>現象2については、実行時に、以下の環境変数を指定することで修正が有効となります。</p> <p>環境変数:MEFTWRAPCONTROL 設定値:2</p> <p>例) バッチファイルで、環境変数"MEFTWRAPCONTROL"に値"2"を設定する場合 set MEFTWRAPCONTROL=2</p>
5	V10.1.0	PG69450	<p>以下の条件の時、稀に、通知コード18、21で印刷または印刷プレビューが失敗する場合があります。</p> <p>なお、MeFtのバージョンがV10.0.0以降の場合、イベントログに以下のいずれかの詳細コードが通知されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 18-41b0-00000005-00000000 • 18-42d1-00000005-00000000 • 21-02b6-00000005-00000000 • 18-0011-00000005-00000000 <p>1. 以下の機能を利用した複数の帳票出力を同時に実行した。</p> <ul style="list-style-type: none"> － 拡大・縮小指定、またはコンパクト印刷 － 組込みメディア項目 － ラジオボタン・チェックボックス項目 － 印刷プレビュー
6	V10.1.0	PG63410	<p>以下の条件に示す帳票定義体を使用した場合、MeFtの印刷機能が異常終了します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. FORMを起動して、帳票定義体を編集中にする。かつ、 2. バーコード種別が 標準物流、または 拡張物流 のバーコード項目を定義する。かつ、 3. レコード定義を定義する。かつ、 4. 次の計算式の結果が、256の倍数から1引いた数になるよう、項目を定義する。かつ、 <ul style="list-style-type: none"> － [画面帳票定義体プロパティの項目制御部が なし の場合] <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">項目長の総和 - レコード定義の末尾の項目の項目長</div> <ul style="list-style-type: none"> － [画面帳票定義体プロパティの項目制御部が 共有する の場合] <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">項目長の総和 - レコード定義の末尾の項目の項目長 + (項目数 × 3)</div> <ul style="list-style-type: none"> － [画面帳票定義体プロパティの項目制御部が 共有しない の場合] <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">項目長の総和 - レコード定義の末尾の項目の項目長 + (項目数 × 5)</div> <ol style="list-style-type: none"> 5. レコード定義の末尾に無効項目を追加する。かつ、 6. 2.で追加したバーコード項目のプロパティでアドオンデータを有効にし、5.で追加した無効項目をアドオンデータを保存する項目として指定する。かつ、 7. 定義エラーのない状態で、定義体を保存する。

項番	V/L(*)	P番号	現象
			<p>または、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PowerFORMを起動して、帳票定義体を編集中にする。かつ、 2. バーコード種別がUPC-A(UPCバージョンA)、UPC-E(UPCバージョンE)、またはEAN-13のバーコード項目を定義する。かつ、 3. 次の計算式の結果が、256の倍数から1引いた数になるよう、項目を定義する。かつ、 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> $\text{項目長の総和} - \text{レコード定義の末尾の項目の項目長} + (\text{項目数} \times 5)$ </div> 4. 2.で定義したバーコード項目のプロパティから、アドオンデータを設定し、レコードリストの末尾にアドオンデータのレコードのみ項目を追加する。かつ、 5. 定義体を保存する。

*:V/Lは障害が存在する範囲を示します。

3.4 SIMPLIA/COBOL支援キット

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ

プログラム修正の情報はありません。

3.5 PowerSORT

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ

PowerSORTのプログラム修正に関する情報は、“PowerSORT ユーザーズガイド”を参照してください。

3.6 Jアダプタクラスジェネレータ

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ

プログラム修正の情報はありません。

3.7 FORM

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ

FORMのプログラム修正に関する情報は、“FORM 説明書”を参照してください。